

臨牀歯周病学会関東支部 第 42 回 支部教育研修会 平成 19 年 3 月 25 日 日曜  
教育講演：『歯周組織と審美』

Root coverage - より洗練された技術を獲得するために

東京都開業 歯周病専門医 小延 裕之

Keywords: Root coverage, Connective tissue graft, 学習, 診断, 治療計画, スキル

Root coverage は、患者のみならず歯周治療を手がける歯科医師にとって非常に魅力的なオプションの一つです。なぜなら、治療結果が短期間で明白になるという歯周治療としては例外的な特徴がある上に、『歯が長くなってしまった』と悩んでいた患者にとって主治医を信頼するに足る最良の方法であり、審美的な結果と共に歯の寿命を伸ばすことにつながる可能性が高いからです。しかしながら、この素晴らしい技術の存在と確実な予知性を持っていることを知っている国民は皆無に等しいです。歯科医師の中にあっても知らなかったり、懐疑的に捉えているものが大多数だというのが我が国の実情に近いと思います。その証左に医療費の無駄遣いであり、かつ歯の寿命を短くしている可能性が高く何の役にも立ってはいないであろう無意味で醜悪な五級窩洞に対する充填処置がいたるところで散見されることから良くわかります。

Root coverage が先進国で大きな支持を得るに至ったのは Connective Tissue Graft の技術革新によるものです。そして今では適応範囲が飛躍的に拡大され Perio Plastic Surgery というジャンルを形成し、インプラント周囲組織のマネージメントにも直接的に多大な影響をもたらしたことはここで言うまでもないことでしょう。しかしながら、それは手術のデザイン、Split thickness flap の形成、ドナーの採取、グラフト etc. と歯周治療に精通していなければ困難なハードルのオンパレードです。公的で十分な水準の専門医の教育機関や学校というものが事実上、存在しないとあって差し支えない我が国において、特殊な技術の一つである Perio plastic surgery を的確にマスターするにはどのようにステップアップしていけばいいのでしょうか？

演者が過去 10 数年において記録してきた資料を鳥瞰してみると技術を獲得するために必要な条件のある一面が窺えました。最初に診断が大切です。次いで文献による考察(Evidence), 3番目に治療計画, そして最後に歯周外科のスキルであると考えています。つまり、手術のスキルは結果を左右する要因としてはどちらかといえば優先順位が低いのです。しかし、最低限のスキルがなければ Evidence 通りの結果が得られないことも事実です。最初から手術の上手な人などほとんどいないわけですが、一向に結果が伴わず最終的にご自身の治療オプションの中から除外されてしまうのは残念以外の何物でもありません。この講演は演者の手術の歴史を Evidence と比較し、新しい知識をどのように取り入れていったのか、そして最終的に患者に安定して自信を持って薦められるオプションとなり得たのかについて解説する予定です。特に現在修業中の先生方のご参考あるいはささやかな指針になるなら、それは望外の喜びです。